

不審者から子どもを守る防犯教育

——家庭・地域との連携を通して——

文京区立千駄木幼稚園 園長 徳 永 静 江
〒113-0022 東京都文京区千駄木5-43-3 Tel (03)3823-4605

I 幼稚園の規模及び地域

1 幼稚園の規模

年少3歳児 1学級 15名
年中4歳児 2学級 40名
年長5歳児 2学級 51名

合計106名

教職員数 園長 1名 教頭 1名
教諭 6名 講師 1名
非常勤職員(再任用含む) 4名
合計13名

2 地域の環境

- (1) 本園は落ち着いた住宅街の中にあり、周りには、多くの細い路地がある。路地は消防車が入れないほどの狭さであり、災害時は、危険地域に指定されている。
- (2) 区内では、不審者情報が多い地域でもあり、近くの不忍通りは、交通が激しい。
- (3) 地域では、町会ぐるみの夜の見回りやワンワンパトロール、幼稚園・小学校の保護者による自転車利用時のパトロール、「スクールガード」の取組が始まった。
- (4) 行政の取組として学校110番、安心メール、電気錠、各保育室にインターフォンを設置した。

II 取組のポイント

1 千駄木幼稚園安全体制マニュアル

災害時や不審者侵入時などの危機的状況において、幼児を安全に避難させ、被害を防止するために教職員間で連携・協力体制を図る。

(1) 目的

保育中の不審者侵入への対応を共通にするとともに、幼児の安全を確保する。

(2) 内容

ア 始業前、保育終了後の安全確認

- (ア) 出勤時の園内巡視
- (イ) 日頃の配慮

イ 保育中の安全管理

- (ア) 施錠の徹底
- (イ) 来園者、保護者の確認
- (ウ) 教職員の動き

ウ 不審者発見、または遭遇した場合の手立て

- (ア) 園内に不審者が侵入した場合
 - ① 園児がいる場合
 - ② 園児がいない場合
- (イ) 園の付近に不審者がいた場合
 - ① 園児がいる場合
 - ② 園児がいない場合

エ 不審者にかかわる情報を入手した場合

2 幼児の安全を守る指導

- (1) 生活安全について
- (2) 交通安全について
- (3) 避難訓練について
- (4) 不審者から身を守る指導について

*本園では、幼児の恐怖心をあおらないよう、幼児が直接不審者と出会う訓練は、避けている。

3 教職員の研修・実地訓練

- (1) 研修・実地訓練
地域の警察官を講師に招聘し、防犯に関する講義を受ける。
- (2) その後、不審者侵入を想定した実地訓練を行い、具体的な指導を受ける。
- (3) 保育中に、不審者侵入を想定した指導計画のもとに、実際に警察官が立ち会い、防犯訓練の様子を見て講評してもらう。その際、幼児への話も依頼する。

4 保護者への指導とPTA(千幼会)の活動

- (1) 年度当初に保護者用の「安全バッジ」を配布し、安全確保のために登降園時の着用を促す。
- (2) 地域の警察と連携して、保護者による「千駄木パトロール隊」を結成する。登降園に利用する自転車、ベビーカーに「パトロール実施中」のプレートを付ける。

Ⅲ 取組の概要

1 防犯訓練

防犯安全対策として、電気錠やインターフォンの取り付け、学校110番（警察へのホットライン）などが設置されたが、幼児を守る基本は人であり、実地訓練は欠かせない。

教職員が、危機管理意識を常にもち、いざという時に適切な対応処置ができるよう、本園では以下のように訓練を行っている。

(1) 年間計画の作成

- 4月 防犯訓練計画の確認
安全体制マニュアル、役割分担の確認
- 6月 警察官による不審者対応訓練（教職員のみ）
さすまたの使い方
講評・講義
- 7月 不審者対応訓練（幼児・教職員）
- 12月 警察官による不審者対応訓練（幼児・教職員）

(2) 安全体制マニュアル、役割分担確認について

- ア 全教職員で名札の着用、笛の携帯、ブザー、暗号放送などを確認する。
- イ マニュアルを見ながら、門扉の開閉について不審者への基本的な対応、避難経路、役割などを確認する。

(3) 警察官による不審者対応訓練（教職員） 6月

- ア ねらい 幼児、教職員の生命が脅かされる事態が発生した場合に備えて、安全かつ適切な措置を行うための方法の共通理解を図る。
- イ 内容 不審者（刃物を持っている）が保育時間中、園庭に侵入する。



〈不審者に対応する〉

- (ア) 不審者が園庭に侵入し幼児（役）に声をかける。
- (イ) 複数（2名）の教職員が対応し、幼児（役）をその場から離す。
- (ウ) 他の職員に連絡する。→ 職員室へ
- (エ) 緊急放送をする。「暗号放送」
- (オ) 幼児を園舎内に誘導する。
 - ・ 1階、2階で所定の保育室に幼児を誘導する。
 - ・ 鍵をかけ、カーテンを閉める。
- (カ) 「学校110番」に通報する。
- (キ) さすまたを持って不審者対応の応援に行く。

ウ 実践の成果

警察官による講評

〈不審者発見の対応〉

- ・ 発見者がすぐに不審者に声を掛けたのがよかった。
- ・ 不審者には、必ず複数で対応する。
- ・ 不審者が幼児に話し掛けていたら、連れて行かれないよう、とりあえず一人でも行く。
- ・ 周りにいる幼児に大人を呼びに行かせる。笛を吹く。
- ・ 不審者に声をかけられた幼児（役）をすぐに抱きかかえて逃がしたことはよかった。
- ・ さすまたを持った応援者が来たら、対応者は下がる。
- ・ 動きの指示を出すと動きやすくてよい。
- ・ 不審者を刺激しないようにしながら声を出して状況を伝え合う。
- ・ 不審者がナイフを出したら興奮状態と考える。
- ・ 不審者との間合いを取る。相手が近づいてきたら、下がって間合いを取る。
(さすまたは距離を保つのによい)

〈侵入を防ぐために〉

- ・ 侵入経路は、不明なことが多いが、正面から来るパターンが多い。
- ・ 電気錠を開ける時に、正気か否か判断する。
- ・ 宅急便と偽ることもあり注意する。

エ 反省と改善点

- ・ 警察が来るまでの時間を稼ぎ、幼児を避難させることが大切であることを改めて認識した。
- ・ 2階の保育室にカーテンを取り付ける。

- ・ 人数確認がしにくく、1階と2階の連絡をとる必要がある。
- ・ 誰が保育室に入っても分かるよう、保育室の黒板に欠席幼児の名前を書いておく。

(4) 不審者対応訓練(幼児・教職員) 7月

ア ねらい

<幼児>教師の指示に従って行動する。

<教師>不審者が園内に侵入した際の避難の方法を知る。

イ 想定 不審者(刃物を持っている)が保育時間中に玄関から侵入

ウ 流れ

(ア) 不審者が玄関から侵入

(イ) 教職員が複数で対応するとともに、近くにいる幼児をその場から遠ざける。

(ウ) 他の職員に連絡

(エ) 緊急放送(暗号)を流す

「△▲○●□◇。子どもたちは、急いで近くにいる先生のところに集まりましょう。先生方は子どもたちを誘導してください。」

(オ) 幼児を園舎内に誘導する。1階はうさぎ組。2階はことり組に集める。内側から鍵をかけ、カーテンを閉める。

(カ) 「学校110番」に通報する。受話器をあげたままにしておく。(実際には行わない。)

(キ) 子どもたちが、恐がらないで待てるように静かに話し掛けたり、絵本を見たりして落ち着かせる

(ク) 避難終了、人数確認が済み次第、不審者対応の応援に行く。(さすまたを持つ)

(ケ) 解決したら放送を流す。「△▲○●□◇」

エ 実践の成果・反省及び改善点

- ・ 昨年度の防犯訓練の反省から、子どもたちが、避難して集まる部屋には、内側から鍵を掛けられるようにしたことや、目隠し用のカーテンを取り付けたことが安全確保へとつながる。
- ・ 昨年度の防犯訓練を経験している年長児や、年中児の落ち着いた避難の動きを見ることで、初めて経験する幼児も落ち着いて行動できた。
- ・ 園外に避難することを想定し、上履きを必ず履かせる。

(5) 警察官による不審者侵入訓練(幼児・教職員) 12月

ア ねらい

<幼児>放送を聞き、速やかに行動する。

<教師>実際に不審者が園内に侵入した際の適切な動きや対応の方法を知る

イ 想定 不審者(警察官が刃物を持っている)が保育中に正門から侵入。幼児には不審者の姿は見せない。

ウ 実際の職員の動きと流れ

(ア) 不審者が玄関から入ってくる。(インターフォンにて保護者を装う)

(イ) 職員室の教員1が発見し、職員1、職員2ともに、近付く。声を掛け、用件を聞く。やりとりを続ける。

(ウ) 職員1が施設内に緊急放送を流す。「△▲○●□◇。子どもたちは急いで近くにいる先生のところに集まりましょう。先生方は子どもたちを誘導してください。」

(エ) 放送と同時に駒込警察署(学校110番の代わり)に通報する。

(オ) 各学級の担任Tは各保育室で幼児を集めた後、様子を見ながら1階はうさぎ組、2階はことり組に避難させる。鍵を掛け、カーテンを閉める。上履きを履かせる。人数確認をし、インターフォンで職員室に人数を報告する。

(カ) 人数確認を済ませ、幼児の安全確保をした後、教員2、教員3は不審者対応の応援に行く。(さすまたを持つ)

(キ) 教員2、教員3と職員3が、さすまたを持って応援に駆け付ける。3人でさすまたを使って、侵入者を抑える。

(ク) 不審者の動きを止め、解決したら職員1が放送を流す。

(ケ) 放送を聞いて、各保育室から幼児を園庭のイチョウの木の下に誘導する。

エ 実践の成果・反省及び改善点

- ・ 実際に不審者(警察の方が変装)役がいたので、教師も具体的に動くことができた。
- ・ 前回(7月)の防犯訓練を覚えている幼児がいて、全体的に落ち着いて行動していた。
- ・ 避難終了後の人数確認の際、保育室のインターフォンを、ことり組とうさぎ組で同時に掛けてしまったため、混線して使えなかった。また、現場である玄関、職員室では人数報告を受ける余裕もなく、もし、好きな遊びをしていて、近くの保育室に逃げ込んだ場合はどのようにして人数確認をする

るのか、再度検討する必要がある。また、もしも人数が足りない時は、応援に行く教師が幼児を探しに行く必要があることが分かった。

- ・ 年間計画の中で自由形態での防犯訓練を入れることが必要である。(2学期では学級で集まった状態での避難が精一杯なので、3学期に行う。)

2 教職員の研修・実地訓練

研修・実地訓練として以下のことを行った。

- (1) 警察官による不審者対応訓練
- (2) 110番の通報訓練
- (3) さすまたの使い方

(1) 警察官による不審者対応訓練について

不審者対応については、前述した。実際に不審者を装った警察官と対応することは、大変な緊張感があり、恐怖すら感じるものである。

ア 危害を与えられないよう間合いを取る。

イ 複数の人数で対応する。

ウ むやみに刺激しないようにする。

エ 話し続け、幼児が避難し、警察官が来るまでの時間を稼ぐ。

オ 幼児がいる方に歩み出したら、体を入れて阻止するようにする。

などを体験的に学んだ。

教職員で連携を取って対処することが何より重要である。



<防犯訓練研修会>



<危険な所はどこかな?>

(2) 110番の通報訓練について

駒込警察署に連絡し、最初に「訓練」といった上で、警察官とやりとりを行った。

ア はい、110番警視庁です。事件ですか？事故ですか？

→ 事件です。〇〇幼稚園に刃物を持った男が侵入してきました。今、職員が説得中です。

イ 怪我人がいますか？

→ いません。

ウ はい、分かりました。あなたの声を聞きながら、警察官が向かいますので、落ち着いてお話しください。

→ 事実をありのまま話す。

エ 事件は今から何分前ですか？

犯人はいますか？

→ 5分ほど前に侵入してきました。

犯人は今、園庭にいます。

オ 〇〇幼稚園の住所を教えてください。

今、110番しているところはどこですか？

→ 〇区〇〇町〇丁目〇番〇号です。

今、幼稚園の職員室から110番しています。

カ 〇〇幼稚園へ行くまでの目標物はありますか？

→ △小学校、◇中学校の近くです。

キ 犯人はどのような刃物を持っていますか？

→ ナイフを1本持っています。刃渡り15センチ位あります。

ク 犯人は、一人ですか？性別は？何歳位ですか？身長は？体格は？

髪型は？顔色は？顔型は？

メガネ、マスクは？服装は？酒の匂い、訛り、面識は？

→ 犯人は一人です。30歳位、身長は165センチ位、がっちり、短髪、紺色の野球帽、マ

スクをしています。上着は紺色のジャンパー、紺色のズボン、黒の革短靴、酒の匂い、訛り、面識はありません。

ケ 今、どのような状況ですか？

→ 事実をありのまま話す。

コ あなたの名前、年齢、職業、住所、電話番号、今かけている電話番号は？

→ 略

サ 間もなく警察官が着きます。状況を警察官にお話ください。

→ 到着した警察官に状況を話す。犯人が触った物には手を触れない。逃走したら方角、逃走方法（駆け足、車）を話す。

<学んだこと>

- ① 緊迫した雰囲気や圧迫されそうになるので、落ち着いて答える上でも、住所、電話番号などは、電話のそばに分かりやすくしておくことが大切である。
- ② 犯人の様子を聞いて、警察官は装備をするので、正確な情報が重要である。
- ③ 110番通報要領を職員室の壁に貼り、犯人の特徴を意識してとらえることが大切である。
- ④ 電話の子機を使用し特徴を話したが、電話をかけているところを見られることは、犯人を刺激するので、避けた方がよいと指導された。
- ⑤ 実際に「学校110番」は使用しなかったが、使うときは、受話器をはずしたままにする。

(3) さすまたの使い方

教職員全員が、警察官を相手に、さすまたを用いた訓練を行った。

ア 犯人には、必ず複数で向かう。

イ 二人で前から構える。

ウ 犯人が刃物を振り上げたら、下から上腕を押さえる。

エ 犯人が刃物を下のほうから刺そうとしたときは、上から腕を腹に向けて押さえるようにする。

オ 応援に来た人は、後ろからひかがみを狙って、さすまたを使い、前後で取り押さえる。

カ さすまたを使用するのは、犯人を捕らえることよりも、間合いを取って、警察官が到着するまで時間を稼ぐことが大切である。



△
<さすまたを使っての訓練>
▽



3 保護者との連携

安全教育を進めていくためには保護者の理解や協力を得ることが重要である。そこで、本園では保護者と共に以下に述べる4つのことに取り組んでいる。

最近是不審者の情報が多く寄せられ、安心して子育てをする環境が脅かされている状況にある。そのため保護者は防犯への関心を高め、町会ぐるみで朝の犬の散歩を兼ねたワンワンパトロール、町会の夜回り、登下校時間に合わせたスクールガードなど様々な方法と目線で子どもたちの安全を守ろうとする動きが活発になっている。

(1) 安全バッジ着用について

入園時に全体保護者会を開き、各家庭、幼児一人に付き一個保護者用安全バッジを配布する。安全バッジは、学級の色別で、表面には「千駄木幼」裏面には保護者名が記入してある。安全確保のため登降園時の際は必ず着用するように促している。運動会やバザーなど外部から多数の人が出入りする時には、不審者対策として参加者に黄色いリボンを付けるようにしている。幼稚園にとっても保護者にとっても互いの存在が分かりやすいよ

さがある。

4月当初から安全バッジ着用の徹底を目指し、登降園時や参観時にバッジのない保護者には繰り返し指導してきた。そのため、保護者もバッジ着用が習慣として身に付き、意識するようになってきた。また、教職員も名札を必ず着用している。バッジのない人には「どちら様でしょうか」と声をかけ、関係者が否か確認するようにしている。



<保護者は安全バッジを胸に>

(2) 千駄木パトロール隊結成について

警察の指導により、全教職員で防犯訓練を行った。その際、園のみならず、家庭、地域の防犯意識を高める大切さを保護者と共有した。また地域の夜回り活動の状況を保護者に知らせたところ、「自分たちでできることは何か」を話し合い「千駄木パトロール隊」を結成した。「自分の地域は自分たちで守る」というキャッチフレーズの基に、自転車やベビーカーに「子ども守り隊」「パトロール実施中」という防犯プレートを付けて、地域で活動することで、防犯意識を高めている。

「千駄木パトロール隊」の結成式は、警察の指導のもと教職員、保護者が出席して行った。警察が地域の治安維持に積極的に活動を展開しており、2種類の防犯プレートを100枚用意していただいた。幼稚園では、自転車かごに付けやすくするために、アルミ製の柔らかい針金を準備し、保護者に渡している。意識が薄れないように、プレートが汚れた場合、いつでも交換できるように、玄関に常に取り置きをしている。近隣小学校も同様のプレートが配られている。地域の子どもを町ぐるみで見守る目、不審者に対しては地域が子どもを守っている目があることをアピールしている。



<ベビーカーに「子ども守り隊」を付けて>



<自転車に「パトロール実施中」を付けて>

(3) 街頭指導について

夏休み前に登園時の様子を警察官に見てもらい、どのような場所に不審者が出やすいのか、いざという時にどのように行動すればよいのか、親子で講話を聞く。

夏祭りやバザー、運動会など普段より人の出入りが多い園行事に、警察官やスクールサポーターに、近隣のパトロールを依頼している。様々な機会を使って幼稚園と警察が連携をとっている状況を保護者に示すことが、保護者への安心感につながっている。

(4) 情報提供及び啓発について

警察・教育委員会と連絡を取り合い、保護者に不審者情報を伝え、安全確保に努めている。

ア 区からのリーフレットを配布する。

イ 家庭通知で不審者対応について啓発する。

ウ 「安心メール」の不審者情報を公開する。